

# 腎・泌尿器疾患

科目責任者 釜井隆男

学年・学期 6学年

## I. 前 文

第6学年の集中講義においては、各教官が翌年の医師国家試験対策を踏まえて、今一度重要事項をまとめる講義を行う。これにより理解が不十分であった部分を補修し、既に習得している事項についても、試験でのミスを防ぐために再確認と地固めを行う。さらに、BSLなどで学んだ知識を実践的に応用できるようにするための講義を行う。

## II. 学修の到達目標

すでに履修した系統講義、臨床講義およびローテート臨床実習の内容を踏まえた上で、腎泌尿器領域の実臨床に必要と考えられる基礎的事項と疾患の症候、診断、治療方法の総括ができるようになる。集中講義では上記のうち代表的疾患と必須の基礎的事項の総括を行う。

## III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

求められる事前学習と事後学習（各30分）：系統講義、臨床講義および臨床実習時の配布資料や学生各自のメモに一度目を通しておくことが望ましい。集中講義後は講師が強調して述べた点や各自のメモを復習することが望ましい。

## IV. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	28	木	3	外科的腎・泌尿器科学Ⅰ	泌尿器科学 安士正裕	
2		28	木	4	外科的腎・泌尿器科学Ⅱ	泌尿器科学 安士正裕	
3		28	木	5	内科的腎・泌尿器科学Ⅰ	腎臓・高血圧内科 頼建光	
4		28	木	6	内科的腎・泌尿器科学Ⅱ	腎臓・高血圧内科 藤乗嗣泰	
5		29	金	2	内科的腎・泌尿器科学Ⅲ	越谷・腎臓内科 竹田徹朗	
6		29	金	3	外科的腎・泌尿器科学Ⅲ	泌尿器科学 木島敏樹	
7		29	金	4	外科的腎・泌尿器科学Ⅳ	泌尿器科学 木島敏樹	

## V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席状況および授業態度などにより総合的に判断する。各担当領域の教員よりの出題による客観的試験を行う。

## VI. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントをとること。

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各担当教官から適宜フィードバックを行う。

Ⅸ. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

医学各論Ⅶ 腎・泌尿器・生殖器疾患

医学総論Ⅵ 症候 7腎，泌尿器，生殖器